

二十歳のメッセージ

皆様、こんにちは。朝霞第四中学校卒業の須本伊織と申します。

はじめに、本日はこのような式典を開催してくださり、誠にありがとうございます。心より感謝申し上げます。

小さい頃、ここ朝霞市で小学校、中学校の生活を送りながら、私は将来どのような大人になるのだろうと沢山考えていました。その時私が思い描いていた二十歳の自分の姿は、とても落ち着きがあり、自立している女性でした。

さて、二十歳になってみた今どうでしょうか？思い描いた理想の大人の姿にはまだまだ届いておらず、精神的にも自分は子どもだと感じることが多いです。そんな私が今日から1人の大人として認められること、嬉しさと同時に「こんな未完成な状態の私が大人として扱われて良いのだろうか」という大きな不安も感じています。

大人には責任が伴い、「子どもだから」と守られる事が無くなります。こう聞くと、大人は甘えることなく、何事も1人で解決しなければならないように思えます。

しかし、これは決して1人で抱え込まなければならない、という意味ではありません。だから、大人になっても誰かを頼りたくなったらいつでも頼って良いのです。

「自立」と言いますが、この先自分だけじゃ立ってられない時もきっとあります。倒れるくらいなら、誰かに寄りかかって立っていられたら良いし、倒れてしまったら誰かに手を貸してもらって、また立ち上がれるようにします。反対に、誰かが倒れそうなら私が支えられるようになりたいです。

今までも家族、沢山の友達、先生方に支えられて生きてきました。世間からは1人の大人として認められるようになりましたが、私はまだまだ人に教わり、時にお叱りを受け、助け合いながら生きていきたいと思えます。

これからも成長の歩みを止めず、理想の自分になれるように頑張ります。

以上をもって私の二十歳のメッセージとさせていただきます。